

A 本市の長期的な農業振興策については、持続可能な農業とするため、新規就農者や認定農業者など担い手の支援や、農産物のブランド化・高品質化などの差別化、また6次産業化の推進により、所得向上を図っていきたい。また、土づくりについては、現在、環境保全型農業を推進しており、今後は、循環型農業を推進したい。また、排水対策については、現在、各地区から要望があっていない状況である。

**耕作放棄地や
鳥獣被害対策について**

朝長 英美 議員

Q 耕作放棄地対策として、牛や山羊の放牧や、棲み分けによる可能性はどうか。また、鳥獣被害対策の中でも、特にカラスの対策と被害はどうか。また、今後、補助金を出しても鷹によるカラス対策を実施するべきではないか。

A 耕作放棄地対策については、今年度、牛の放牧により約1.8haの解消を行った。山羊については放牧中の飼養管理等の問題もあり進んでいないが、地区として取り組む姿勢があれば、今後協議したい。また、カラスによる農作物の被害については、昨年は

89万8,000円の被害が発生している。また、鷹によるカラス被害への対策については、現状を確認し、何らかの形で対応したい。

**旧浜屋ビル1階の
商業施設入居について**

城 幸太郎 議員

Q 旧大村浜屋ビル周辺に駐車場を多数確保することが困難な現状では、ビルの1階に商業施設を入居させるのは不可能に近いと考える。このため、これから進める地方版総合戦略の1つとして無料貸室をつくり、市内に限定せず全国に呼びかけ、「ターナー」や「Jターン」により大村で起業する若者を応援するという夢のある先行投資を考へられないか。

A 旧大村浜屋ビルの入居については、現在の計画を進めていく考えであるが、当該ビルの活用は非常に重要であるため、貴重な提案として前向きに取り組んでいきたい。なお、3階に設置予定の産業支援センターに、スペースの問題はあるが、起業家のために間仕切りをしたスペースを多少用意しようと考えている。

**義犬「華丸」と
お笑い芸人「博多華丸」**

神近 寛 議員

Q 国の指定史跡である萬歳山本経寺には、史実に基づく日本最古の犬の墓がある。眠るのは義犬「華丸」。これを大村市の歴史観光に活かすための官民による実行委員会が設立された。大村市にとって、歴史観光誘致の導入口としてうってつけのキャラ犬である。市には、情報発信等に具体的かつ早急に取り組むことを要望する。

A 義犬「華丸」については、情報発信は当然必要だと考えており、市政だよりやホームページの掲載、マスコミへのプレスリリース等による情報発信に努めていきたい。特に市政だよりについては、6月号に掲載できるよう調整している。また、博多華丸氏についても、お呼びできる可能性はあると考えており、市長自ら要請してもいいと考えている。



**定着性が高い「カサゴ」の
稚魚放流について**

山北 正久 議員

Q 大村湾における漁獲量は年ごとに減少しており、漁業従事者の所得は激減し、死活問題となっている。市内漁家の所得向上のため消費者のニーズが高く、定着性と魚価が安定している「カサゴ」の稚魚の放流量の増大を要望する。

A 現在、種苗放流は漁協ごとに異なっているが、サザエ、ムラサキウニ、カサゴ、ナマコを放流している。カサゴについては、関係漁協と年次計画も含め協議したい。

**やまのり
のり**

川添 勝征 議員

Q 新幹線が7年後に開通するが、今のままでは、大村市に市外や県外から多くの方に来ていただくのは難しいため、観光振興に道を求めるべきであると考えている。天然記念物であるオオムラザクラをもっと売り出したいが、民間で運動するにしても行政との連携が必要である。植栽の場所や苗木の補助等ができないか尋ねる。